

# 令和3年度決算

## 普通会計 決算認定特別委員会 説明資料

教育委員会

目 次

I	令和3年度教育委員会主要施策の成果の概要	1
II	主要事業の内容及び成果	7
III	歳入歳出決算額	18
1	一般会計決算額	18
	(1) 歳入決算額	18
	(2) 歳出決算額	19
2	特別会計決算額	20
	(1) 歳入決算額	20
	(2) 歳出決算額	20

## I 令和3年度教育委員会主要施策の成果の概要

〈徳島教育大綱（令和元年度～令和4年度）の基本目標〉

「未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる『人財』の育成」

### **未知を切り拓く共通戦略**

#### 1 G I G Aスクール構想の展開

（教育政策課，教育創生課，学校教育課，総合教育センター）

##### （1）個別最適化に向けた「教育DX」の加速

「徳島県G I G Aスクール構想」に基づき，児童生徒1人1台端末と高速大容量の校内LANを余すことなく活用し，誰一人取り残すことのない，個別最適化された学習環境を整備した。

また，全国屈指の光ブロードバンド環境を活用し，小中高一貫した「対面教育」と「オンライン教育」の新次元のハイブリッド型教育を推進し，個別最適化された「学び」を実現した。

さらに，県立学校において，新型コロナウイルスの感染拡大や災害等の緊急時に備え，子どもたちの学びの保障と教育の機会均等を図るため，家庭で通信環境を準備することのできない家庭においても，オンライン学習が可能となる環境を整備した。

##### （2）サポート体制の充実

県立学校において専門的知識を有する技術者（G I G Aスクールサポーター）を配置し，児童生徒及び教職員がICTを十分に活用できる体制を整備した。

また，「G I G Aスクール構想」の実現に向け，児童生徒1人1台端末を活用した授業が，すべての学校で実施できるよう，県内公立学校における「G I G Aスクール構想」に関する研修を実施し，全教職員のICT活用指導力の向上に努めた。

## 2 働き方改革の推進

(教育政策課, 教職員課, 福利厚生課, 学校教育課, 総合教育センター)

### (1) ICTの更なる活用

学校における働き方改革を推進するため, 県内すべての公立小中学校に導入する「統合型校務支援システム」を含む「学校業務支援システム」の本格運用を開始した。

また, 児童生徒1人1台端末環境を活用することにより, 学校現場におけるデジタル化を一層推進し, 授業準備の省力化やペーパーレス化の促進など, 教職員の業務負担軽減に努めた。

### (2) 外部人材の活用推進

一人一人の学習定着度に応じたきめ細やかな指導を図るため, 授業準備の補助やTT(ティーム・ティーチング)指導, 放課後等を活用した補習授業, オンライン授業や会議の際のICT機器活用補助等を行う学習指導員(学びサポーター)を引き続き配置した。

また, 教員の業務支援を行い, 教員がより児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備し, 教員の「働き方改革」の実現を図るため, 市町村立小中学校におけるスクール・サポート・スタッフの更なる配置を支援した。

### (3) 研修の進化

教員の大量退職時代を迎える中, 「徳島教育大綱」における「未知の世界に果敢に挑戦する, 夢と志あふれる『人財』の育成」を目指し, 主体的に学び続け自己を高める教育を育成するため, キャリアステージに応じた研修等を実施した。

また, 研修内容を抜本的に見直し, 「GIGAスクール構想の推進」や「いじめ防止スキルアップ」といった現代的な諸課題に対応する研修へと質的転換に努めた。

さらに, eラーニング研修やオンライン研修の充実を通して, 効果的・効率的な研修を展開し, 子どもと向き合う時間を確保し, 研修の成果を児童生徒等へ還元するとともに, 働き方改革を一層推進した。

### (4) 心の健康づくり対策

教職員の心身の健康保持・増進, メンタル不調の予防と再発防止及び健康管理を支援するため, ストレスチェックの更なる活用や各種相談事業等のメンタルヘルス対策事業を体系的に実施した。

### 3 ダイバーシティとくしまの実現

(学校教育課, 特別支援教育課, 生涯学習課)

#### (1) ダイバーシティ先導モデルの構築

文部科学省が策定した「特別支援学校の設置基準」に即応するとともに, 進化型の農福連携や地域一体型のキャリア教育など, 「ダイバーシティとくしま」の先導モデルを目指し, 国府支援学校の整備・機能強化に努めた。

また, 障がいの種別や程度に関わらず, 学齢期を通じて, 文化・芸術・スポーツに親しみ, 楽しむ機会を増やし, 一人一人が個性や能力を發揮しながら, 将来にわたって地域で活躍できる力を身に付けることのできる教育を推進した。

さらに, 帰国・外国人児童生徒に対して, 日本語指導をはじめとした各種支援の充実を図るため, 民間団体等との協働によるトータルサポート体制を構築した。

#### (2) 全国初の県立夜間中学の開校

学び直しを希望する者や外国籍の者などに対する義務教育の段階における普通教育に相当する機会を確保するため, 全国初となる県立の夜間中学である「しらさぎ中学校」の教育活動の充実に努めた。

## 重点施策

### 4 とくしま回帰の推進

(施設整備課, 教育創生課, 学校教育課, 特別支援教育課, 体育健康安全課, 生涯学習課)

#### (1) 持続可能な社会を具現化する「徳島ならではの」教育の推進

成年年齢引下げを見据えた主権者・消費者教育やエシカル消費の普及・啓発など, 全国をリードする先駆的な取組みを更に充実するとともに, 全国のエシカル消費推進に取り組む高校生等がその取組みを発表する「エシカル甲子園」を開催するなど, 新次元の消費者教育を推進した。

また, 小規模化する学校を存続させ, 教育の質を保障する徳島モデルの小中一貫教育である, 「チェーンスクール」「パッケージスクール」の全県展開を図るとともに, 二地域居住や地方移住を促進するため, 地方と都市の学校間移動を容易にする「デュアルスクール」をより一層推進した。

さらに、人口減少が急速に進む地域の高校において、その魅力化や活性化を通じて地域の新たな活力を創出するため、豊かな地域資源を活かした教育プログラムを展開し、地元はもとより県内外から生徒が集う学校づくりを進めた。

## (2) 「とくしま回帰」の加速

将来の地域を支え、持続可能な社会の創り手となる人材を育成し、「とくしま回帰」を促進するため、家庭や地域、経済団体等と連携した取組みを推進するとともに、児童生徒のキャリアプランニング能力を育成する「キャリア教育」を展開した。

また、すべての特別支援学校において、社会的・職業的自立に向けた「キャリア教育」を実施するとともに、テレワークによる就業体験を推進し、重度障がいや発達障がいのある生徒の社会的・職業的自立に向けた新たな就労モデルの構築に努めた。

さらに、次世代の地域を担う中高生をはじめ、若い世代が地域人材と共に課題解決に取り組む「参加型社会教育ワークショップ」を開催するとともに、クラウドファンディングを活用し、未来志向の社会教育を推進した。

## (3) 地域と一体となった教育の推進

「地域とともにある学校づくり」の実現のため、「学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）」の導入を推進するとともに、放課後等の多様な学びや体験活動など、地域人材の参画による学校教育活動支援や地域と学校が連携・協働した多様な取組みにより、地域総ぐるみの教育を実現し、地域の教育力向上や活性化に努めた。

## (4) 未来を守る「防災教育」の推進

南海トラフ巨大地震等の自然災害等に備え、地域防災の担い手となる人材を計画的に育成するため、児童生徒の発達段階に応じた防災教育の推進や、中・高校生及び教員の「防災士」資格取得の支援を推進するとともに、中学校、高校の「防災クラブ」が自主的な活動を行う体制づくりを進め、地域に根ざした積極的な防災活動を展開した。

また、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境を確保するため、「県立学校施設長寿命化計画」に基づき、県立学校施設を長く賢く使えるよう整備した。

## 5 学びの深化

(施設整備課，教育創生課，学校教育課，特別支援教育課，生涯学習課，総合教育センター)

### (1) 真の知性を育む「深い学び」の実現

Society 5.0時代における地域の産業を支える職業人材の育成を進めるため、専門高校において、デジタル化に対応した機器整備を行うことにより、最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現した。

また、徳島商業高等学校の学科再編に伴い、専門性の高い商業教育の実現及び本県ならではの特色ある商業教育の展開により、新たなビジネスを創造し、地域の活性化及び地方創生を担う人材を育成した。

さらに、各学校における地域との連携・協働等を促すため、高校において教育の質の向上や魅力化に地域とともに取り組む体制づくりを推進するとともに、高等学校での「探究活動」を中心とした「深い学び」の実現により、未来の徳島を牽引していく人材を育成した。

### (2) 世界に羽ばたく「グローバル人財」の育成

グローバル化が進む中、高校においても世界規模で取り組むべき課題（SDGs）への関心を高め、徳島の国際化に向けたリーダーを育成するため、海外の高校と協働してプロジェクトを実施した。

また、生徒のより主体的な取組みを促進するため、1人1台端末環境を活用し、学んだ英語を使う機会を飛躍的に増やす実証事業を実施した。

さらに、郷土徳島の伝統文化を担い、新たな価値を見いだしながら、その魅力を国内外へ向けて発信するグローバル人財の育成に努めた。

### (3) 個性が輝き、一人一人が活躍できる「特別支援教育」の推進

発達障がいを含めたすべての子どもたちが主体的に適切な行動を学ぶ「ポジティブな行動支援」を軸として、学齢期を通じた切れ目ない「キャリア教育」を展開するとともに、早期から一人一人の適性を見だし、伸ばすことで、将来の社会的・職業的自立をめざした教育を推進した。

また、すべての学校（園）において、特別な支援を要する幼児児童生徒が適切な支援・指導を受けられるよう、通常の学級をはじめ、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校等の「多様な学びの場」を担う教員の専門性を強化した。

## 6 健全な心身の育成

(教育政策課，学校教育課，人権教育課，体育健康安全課)

### (1) 心身の成長サポート体制の強化

いじめや不登校、虐待など、子どもたちを取り巻く環境が複雑化・多様化する中、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関との連携による教育相談・支援体制の充実による生徒指導ネットワーク体制を構築し、子どもたちが安心して学べる環境を実現した。

また、子どもたちの様々な悩みに対応するため、SNSを活用した双方向での相談窓口を開設し、有効な教育相談体制を構築した。

### (2) 部活動の進化

部活動の質的な向上や活性化を図るとともに、教員の業務負担軽減につなげるため、専門的な知識・技能を有し、単独で指導や引率ができる部活動指導員の配置を拡充した。

また、コロナ禍における「新しい生活様式」に対応した文化部活動を支援するため、専門性を有する県外講師等によるICT機器を活用したオンライン指導を実施した。

さらに、令和5年度以降における、休日の部活動の段階的な地域移行に向け、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体確保などの課題に総合的に取り組むため、拠点校において実践研究を実施した。

### (3) 全国高校総体のレガシー創造

「令和4年度全国高等学校総合体育大会」開催に向け、各専門部会において、具体的な大会運営の検討を行うとともに、機運を醸成するイベント等を実施した。

また、全国高等学校総合体育大会や各種全国大会での上位入賞をめざすため、強化校を指定し、集中的に高校生の競技力向上を図るとともに、優秀な中学生を継続して育成するため、中・高の連携を密にし、合同練習会を実施した。



## II 主要事業の内容及び成果

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
1 G I G A スクールの構想の展開	徳島県G I G Aスクール構想推進事業	徳島県G I G Aスクール構想に基づき、児童生徒1人1台端末と高速大容量の校内LANを余すことなく活用し、個別最適化された学習環境を整備するため、デジタル教科書や授業支援ソフト等を導入するとともに、県立学校において、G I G Aスクール構想を円滑に推進するため、G I G Aスクールサポーターを配置した。 (95,314)
	新時代のハイブリッド型「学び」推進プロジェクト	高等学校での「探究」活動を中心とした「深い学び」の実現によって、将来、持続可能な社会の作り手として各分野を牽引していく人材を育成するため、N(ext)G(eneration) L(eader) 育成プログラムでは、NGLサミットなど、学校の枠を超えて切磋琢磨する機会を設けるとともに、サイエンス・スペシャリスト育成プログラムでは、ハイレベルサイエンス講習会など、将来世界レベルの研究に取り組む科学者の育成を目指して事業を推進した。 (5,981)
	家庭学習のための通信機器整備事業	県立学校において、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業や災害等の緊急時に備え、子どもたちの学びの保障と教育の機会均等を図るため、家庭で通信環境を準備することのできない家庭においてもオンライン学習が可能となるよう、可搬型通信機器を整備した。 (9,570)
	高等学校の多様なニーズに応える遠隔教育推進事業	過疎・少子化の進行により小規模化が進む高等学校を多様な教育活動や魅力的な授業の展開により活性化するため、生徒の学習ニーズに対応した徳島ならではの遠隔教育を実施した。 (754)
	G I G Aスクール構想サポート事業	教員のICT活用能力の向上やG I G Aスクール構想を推進するため、県内すべての公立学校を対象とした教員研修を訪問等により行い、平時の授業改善や緊急時の対応強化を図った。 (177)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
2 働き方改革の推進	学校業務支援システム構築・運営事業	教職員の働き方改革推進のため、学校の業務改善に大きな効果がある「統合型校務支援システム」を含む、県下統一した「学校業務支援システム」の運用を行った。 (20,900)
	新学習指導要領に対応した教科情報指導者研修	新学習指導要領では、すべての高等学校において「情報Ⅰ」が必修化され、これまで以上に指導体制の充実が求められることから、担当教員の専門性の向上を目的として、集合形式とeラーニングを組み合わせた研修を実施した。 (227)
	学びの保障のための学校教育活動事業	公立学校において、児童生徒の学力向上に資する学校教育活動の一環として行われる授業や補充学習、教員の指導力向上支援等のため、退職教員や教員志望の学生等の地域人材を「学びサポーター」として学校に配置し、学びの支援に必要な人的体制の充実を図った。 (14,951)
	スクール・サポート・スタッフ配置促進事業	教員の事務作業等の負担を軽減し、本来の教育活動に専念できる環境を整えるため、小中学校にスクール・サポート・スタッフを配置し、学校現場の教育体制の充実に取り組んだ。 (12,744)
	新しい時代を切り拓く教員育成事業	教職生活全体を通して、効果的・継続的に学び続け、自己を高める教員を支える多様な研修講座を総合教育センターを中心に実施し、教育力の向上を図った。 (3,838)
	教職員研修事業	「とくしま教員育成指標」を踏まえ、研修体系を構築した「とくしま教職員研修計画」を作成し、計画に基づき研修及び協議会を実施した。さらに、初任者研修における校内研修の指導員等を各校に派遣し、効率的・効果的な研修を推進した。 (936)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
2 働き方改革の推進	心の健康づくり事業	希望所属に臨床心理士を派遣し、メンタルヘルス研修を実施した。また、教職員のストレス状態の気づきを促すストレスチェックを実施した。 管理職に対し教職員のメンタル不調を早期発見、早期対応ができるよう、組織としてのメンタルヘルス対応について研修を行った。教職員の職場等における不安等の相談に専門相談員が応じた。 (2,032)
3 ダイバーシティとくしまの実現	新時代対応！国府支援学校整備事業	文部科学省が策定した「特別支援学校の設置基準」に即応し、校舎の狭隘化・老朽化が進む「国府支援学校」をダイバーシティの先導モデルとするため、整備・機能強化を図るとともに、駐車場や農場等の整備に必要な周辺土地を取得した。 (155,839)
	特別支援「みんなが主役」きらめき事業	特別支援学校における文化、スポーツの振興を図るとともに、児童生徒一人一人が主役となり、将来にわたって地域で活躍できる力を身に付けるため、文化的な体験学習、障がい者スポーツの実践、職業スキルを活かした四国霊場札所でのお接待活動等を実施した。 (6,254)
	特別支援学校「エシカルチャレンジ」事業	特別支援学校の生徒の社会参加と能力開発を推進するため、「学校のエコステーション化」や「企業と連携した商品開発」など「エシカル消費」の活動にチャレンジした。 (1,612)
	帰国・外国人児童生徒トータルサポート事業	要望があった学校へ日本語講師を派遣し、日本語指導が必要な児童生徒への日本語教育を行うとともに、教職員や日本語講師を対象に研修を実施し、日本語指導及び情報提供の充実と、支援体制の強化を図った。 (5,431)
	読書バリアフリー推進事業	活字による読書や図書館利用が困難な方々が、地域において読書を楽しめる環境を整備・充実させるため、高校生を対象とした音訳図書製作体験や公立図書館等における読書支援機器・バリアフリー図書の利用促進及び職員研修を行った。 (1,864)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
3 ダイバーシティ とくしまの実現	夜間中学設置推進事業	<p>令和3年4月に全国初の県立夜間中学「徳島県立しらすぎ中学校」を開校し、年代や国籍が異なる入学者の学び直しをサポートするため、多様な学習内容を提供した。</p> <p>また、令和4年度に向け、入学者募集や広報、入学説明会・相談会の開催を行うとともに、「中学校夜間学級協議会」で市町村や関係機関と連携を図り、入学者への支援の在り方等について協議した。</p> <p style="text-align: right;">(1,091)</p>
4 とくしま回帰の 推進	「エシカル甲子園」プロジェクト	<p>次代を担う高校生等の、持続可能な社会の実現に向けた取り組み成果を発表する「エシカル甲子園2021」では、予選審査を経て本選審査に進んだ11校が、エシカル消費の大切さを全国に向けて発信した。</p> <p style="text-align: right;">(9,980)</p>
	18歳！新成人への学びプログラム事業	<p>主権者教育に関する高等学校及び特別支援学校高等部担当教員の指導力向上のための研修や、児童生徒に対する政治参加への意識を高めるために、大学教員や選挙管理委員会、県教育委員会指導主事等による出前講座等の実施により、よりよい社会の構築に向けて主権者教育の一層の推進を図った。</p> <p>また、高等学校等のリーダーが交流し、それぞれの活動について情報交換等をする「高校生リーダー・未来会議」を開催し、リーダーとしての資質向上を図るとともに、持続可能な社会の実現に向けて積極的に関わっていく力の育成を図った。</p> <p style="text-align: right;">(2,003)</p>
	新次元の消費者教育推進事業	<p>自立した消費者の育成のために、多様な主体と連携・協働し、幼稚園・小学校・中学校・高等学校における発達段階に応じた消費者教育や、持続可能な社会の実現に向けた「エシカル消費」教育を推進した。</p> <p style="text-align: right;">(7,909)</p>
	二地域居住を加速する「デュアルスクール」推進事業	<p>保護者の短期居住にあわせて、子どもの学校間の行き来を容易にし、地方と都市の双方で教育を展開することにより、多面的な視点に立った考え方ができる人材を育成するため、「二地域居住」や「地方移住」の促進にもつながら「デュアルスクール」を積極的に広報することで、保護者や自治体等からの問合せが増加した。</p> <p style="text-align: right;">(2,076)</p>

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
4 とくしま回帰の 推進	スーパーオンリーワンハイスクール事業	高校生自らが地域の課題解決に向けた活動を通じて、魅力ある学校づくりや地域を活性化させることを目的に、実施校の取組みを支援するとともに、生徒活動発表会の開催や発表要旨集を発刊して、その成果を広報した。 (7,872)
	高校生の社会参画力育成事業	「鳴門市のまちづくりを考える」をテーマとして、実践研究校である鳴門高等学校、鳴門渦潮高等学校の生徒が、ワークショップ等を通して地域の課題について多角的に調査・研究し、課題解決型の学習プログラムの開発と実践により、他者と協働して、積極的に社会参画する意欲や態度の育成を図った。 (225)
	人口減少社会に対応した小中一貫教育推進事業	過疎・少子化の進行により小規模化が進む中、学校を存続させ、かつ教育の質を保障するために、「チェーンスクール」及び「パッケージスクール」という2つの学校教育のかたち（徳島モデル）を県下全域に周知し、普及・推進を図った。 (3,154)
	ふるさと創生拠点ハイスクール推進事業	人口減少が急速に進む地域にある海部高等学校において、魅力化や活性化を通じて地域の新たな活力を創出するため、豊かな地域資源を活かした教育プログラムやICTを活用したグローバル教育を展開するとともに、海部高等学校の魅力を効果的に発信した。また、令和2年度に増設した海部第二寮の効果もあり、県外からの入学生が増加した。 (43,228)
	未来へつなぐ「キャリア教育」推進プロジェクト	子どもたちが「ふるさととくしま」の未来を切り拓き、「持続可能な社会」を創造する力を身に付けるとともに、自らのキャリアプランニング能力を高める力を育成することを目的に、家庭・地域・経済団体・企業等の多様な主体と積極的に連携したキャリア教育を展開した。 (4,526)
	世代を超えて開かれつながる社会教育推進事業	地域人材と若者が協働で地域の抱える課題解決に取り組むことを目的に、地域課題解決実践型の事業及びクラウドファンディングを実施した。また、多世代参加型社会教育ワークショップを開催し、社会教育を通して世代間の交流を図った。 (4,129)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
4 とくしま回帰の 推進	コミュニティ・スクール推進事業	各高等学校等を地域の将来を担う人材育成の拠点とするため、地域との連携を進めている高等学校等において、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の導入に向けた取組みを支援した。  (810)
	地域と学校の連携・協働強化事業	幅広い地域住民等の参画による学校の支援体制である地域学校協働本部の活動を推進した。また、放課後や週末等の子どもたちの安全な居場所を確保し、学習、スポーツ、芸術、交流などの活動を行う放課後子供教室の実施に対して、支援を行った。  (39,022)
	ふるさと大好き！地域防災推進事業	全ての高等学校に「防災クラブ」を設置し、中学校にも設置を広げ、地域と連携した防災ボランティア活動等に取り組むなど、将来の防災の担い手の育成を図った。  (2,011)
	実践的防災・安全教育総合推進事業	学校における安全教育の充実と推進を図るため、国費事業（学校安全総合支援事業、学校安全教室推進事業）を活用し、災害安全、交通安全、生活安全に関する実践研究・研修に取り組んだ。  (1,498)
	チャレンジ防災人材育成推進事業	小学校高学年を対象にした防災学習プログラム「あわっ子防災チャレンジ」を推進し、発達段階に応じた実践的な防災教育の充実を図った。地域防災の担い手となる人材を計画的に育成するため、「学校防災人材育成講座」を開催し、「中高校生防災士」を養成するとともに、学校防災の要であり防災教育に係る指導的立場を担う「教員防災士」を養成した。  (5,955)
	県立学校施設長寿命化推進事業	長寿命化計画に基づき、老朽化している建物を改修し、児童生徒が、安全・安心に学ぶことのできる教育環境の整備を行った。  (1,212,193)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
5 学びの深化	デジタル化対応産業教育設備整備事業	Society 5.0時代における地域産業を支える職業人材の育成を進めるため、専門高校において、最先端のデジタル化に対応した産業教育設備の整備を行った。 (865,343)
	ビジネス創造人材育成事業	令和3年4月からの徳島商業高等学校の学科再編に伴い、専門性の高い商業教育の実現及び本県ならではの特色のある商業教育の展開により、地域の活性化及び地方創生を担う人材を育成した。また、カリキュラムにおいて外部人材を活用し、専門的な教育や高度な商業教育を展開した。 (927)
	第4次産業革命時代に活躍するためのプログラミング教育事業	第4次産業革命時代の未来社会に活躍できる人材を育成するため、小学校段階でのプログラミング教育の実施に向けて調査研究を行うとともに、実践的なプログラミング教育の実施に向けて教職員の指導力向上を図った。 (1,505)
	高大・地域連携キャンパス実践展開事業	高大連携や地域・民間連携の拠点となる高等学校・大学・地元企業が一体化した阿南光高等学校新野キャンパスにおいて、徳島大学との高大接続教育や産業界と連携した研究開発に取り組み、地方創生の原動力となる人材育成を展開した。 (1,262)
	ふるさと協働による高校教育の質の向上・充実化事業	各学校における地域との連携・協働等を促すため、地元企業等の地域の方が参画した「ふるさと協働実施委員会」を高等学校に設置し、その助言・協力を得て、高校教育の質の向上・魅力化に地域とともに取り組んだ。 (3,773)
	英語教育アップグレード事業	高等学校において、1人1台端末を活用した「オンライン英会話」を授業で実施するとともに、授業実践の前後で到達度テストを実施し4技能の伸長度を測った。また、研究授業及び事業の報告により、県内教員への成果の普及に努めた。 (6,029)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
5 学びの深化	徳島あわっ子グローバル文化芸術事業	<p>徳島の伝統文化を担い、その魅力を県内外に発信する「人財」を育み、中学生の文化芸術発信力を高めるため、県内全公立中学校1・2年生を対象とした「あわ文化検定」を実施するとともに、「あわっ子文化大使」と「あわっ子文化大使サポーター」のコミュニケーション能力の育成を推進した。</p> <p>(1,195)</p>
	世界スタンダード英語4技能育成事業	<p>英語4技能育成を目的に、中学校2年生を対象として、CAN-DOリストに沿った授業実践を行い、客観的な指標による4技能型のテスト（英検I B A R L W S）を実施した。結果から、生徒の英語力把握と指導のPDCAサイクル促進がすすみ、成果を県内全中学校に共有した。</p> <p>(5,447)</p>
	発達障がい「つながる・ひろがる・はばたく」充実事業	<p>発達障がいのある児童生徒等への切れ目ない支援のため、本県独自の「ポジティブな行動支援」の拡充を図るとともに、社会的・職業的自立に向け、一貫したキャリア教育の充実を図った。</p> <p>(5,341)</p>
	障がいの生涯学習支援事業	<p>県立総合大学校「まなびーあ徳島」に「障がいの学びコース」を開設し、県立障がい者交流プラザにおいてスポーツや文化・芸術、生涯学習等に関する講座を実施した。また、視覚障がい者等の読書環境を整備充実させるために「徳島県読書バリアフリー推進計画」を策定した。</p> <p>(1,582)</p>
	特別支援教育パワーアップ事業	<p>教員のキャリアステージや目的・ニーズに応じた研修会を設定し、特別支援教育の理解・啓発や実践的指導力の向上を図った。また、幼稚園、小・中・高等学校に対する巡回相談員による指導を行った。</p> <p>(2,883)</p>
6 健全な心身の育成	感染症対策等学校教育活動継続事業	<p>学校における感染症対策を強化するため、保健衛生用品等の追加購入による、感染症対策を実施するとともに、臨時休業の長期化に伴い、夏季休業期間の短縮等で研修参加機会を逸した教職員に対し、新型コロナウイルス感染症対策にも資する研修等への参加機会を確保し、コロナ禍に対応するための教職員の資質向上を図った。</p> <p>(80,858)</p>



(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
6 健全な心身の育成	徳島あわっ子“愛♡藍”ネットワーク事業	不登校、いじめや暴力行為などの児童生徒の問題行動等の未然防止や早期発見のために、スクールカウンセラーを各学校等に配置した。また、スクールソーシャルワーカーを市町村教育委員会に配置するとともに、学校問題解決支援チーム派遣として、より高度で専門的な知識を有するスクールプロフェッサー（医師、臨床心理士、社会福祉士等）を学校等に派遣したり、スクールロイヤー活用事業として法律の専門家である弁護士が学校をサポートしたりするなど、教育相談体制の充実を図った。 (128,240)
	学校における戦略的モニタリング検査推進事業	学校教育活動等による新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、部活動の大会や就業体験参加、就職・進学で県外受験する生徒及び教職員等に対し、モニタリングPCR検査を実施した。また令和4年3月からは、オミクロン株の感染拡大に対応するため、抗原定性検査を検査方法に追加し、実施した。 (14,611)
	体力アップ！サンライズ事業	運動習慣の確立や望ましい生活習慣を形成し、体力向上に向けた県民への啓発活動を行うことで、子どもの体力・運動能力の向上を図るため、ICTを活用したランキングシステムによる「NEW キッズ&ジュニアわんぱくランキング」を実施した。 (4,095)
	元気なあわっ子！応援事業	本県の子どもたちの特徴的な健康課題である「肥満予防」「生活習慣の改善」を図るため、全ての公立学校で「生活習慣改善プロジェクト」を作成し、各学校の実情にあった取組みを推進した。また、専門家を派遣し、学校、家庭、地域が連携して児童生徒の健康課題を解決するための体制づくりと取組みの支援及び専門家と連携しての研修会等を実施した。 (247)
	SNS活用「生徒の心の相談」事業	いじめ問題をはじめとする様々な悩みを抱える生徒に対して、SNSを活用した相談窓口を開設することで、相談に係る選択肢の多様化を図り、生徒が抱える悩みに向き合い、問題の深刻化を未然に防止するとともに、より有効な教育相談体制の構築に努めた。 (19,753)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
6 健全な心身の育成	部活動指導員配置促進事業	<p>学校の働き方改革の一環として、部活動における教員の負担軽減と質的な向上を図るため、中学校に部活動指導員を配置した。</p> <p>(15,246)</p>
	輝け高校生！文化部オンライン支援事業	<p>対面での指導が制限される中、専門性を有する県内外の講師から、オンラインを活用した指導を受けることにより、生徒のスキルアップや専門的技術の習得につながるよう支援した。</p> <p>(2,315)</p>
	地域部活動推進事業	<p>中学校における休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けて、「地域人材の確保」や「費用負担の在り方の整理」、「運営団体の確保」などの課題解決を検証するため、実践研究を実施した。</p> <p>また、文化部の休日の地域部活動を推進する拠点校を設け、「休日の部活動の段階的な地域移行」の課題について検証するとともに、文化庁の有識者検討会議「文化部活動の地域移行に関する検討会議」において、取組み事例について事例発表を行った。</p> <p>(2,019)</p>
	次代へ継承・文化芸術創造事業	<p>本県の文化力を全国に発信するため、平成27年に文化芸術リーディングハイスクールに指定した名西高校を文化芸術教育の拠点校として育成するとともに、城北高校人形会館を活用し、阿波人形浄瑠璃の伝承に取り組んだ。</p> <p>(20,534)</p>
	令和4年度全国高等学校総合体育大会推進事業	<p>令和4年度に四国ブロックで開催される全国高校総体を翌年に控え、徳島県実行委員会を運営するとともに、総合開会式、競技種目別大会の開催準備を進めた。</p> <p>(64,044)</p>
	NEO徳島トップスポーツ校強化事業	<p>本県高校スポーツの競技力向上と普及・振興を図り、全国大会で入賞できる部活動を育成するため、強化指定校・育成指定校の2つのカテゴリーに分けて指定し、それぞれの特徴に応じた活動を支援した。</p> <p>(18,754)</p>

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
6 健全な心身の育成	渦潮スポーツアカデミー推進事業	未来のトップアスリートを徳島から発掘・育成・強化するため、鳴門渦潮高校をスポーツの拠点校として、県内アスリートの体力を科学的に測定・分析し、専門家のサポートを行ったほか、専攻実技8競技への強化費支援、部活動指導者へのスキルアップ研修等を実施した。 (6,709)
	中学校トップスポーツ競技育成事業	県中学校スポーツの競技力の向上と普及・振興を図り、全国大会で活躍できる競技者を育成するため、中学校体育連盟加盟競技専門部の中からトップスポーツ競技を指定し、中学校体育連盟及び専門競技部を支援した。 (3,489)
	あわスポーツ・ブルーミング戦略事業	長期的な展望に基づき、競技団体と連携し、選手の育成・強化を図るため、県高体連に対しトップスポーツ校以外への強化費助成、県中体連に対し四国・全国総体への強化費助成、県小体連に対し実技講習会への助成を実施した。 (6,099)

### Ⅲ 歳入歳出決算額

#### 1 一般会計決算額

##### (1) 歳入決算額

(単位：円)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	予算現額と 収入済額の比較
教育政策課	615,744,165	425,106,101	425,106,101	0	0	△ 190,638,064
コンプライアンス推進室	0	0	0	0	0	0
施設整備課	735,734,000	439,985,278	439,980,286	0	4,992	△ 295,753,714
教育創生課	21,703,000	16,648,147	16,648,147	0	0	△ 5,054,853
教職員課	11,062,485,000	11,071,775,525	11,071,775,525	0	0	9,290,525
福利厚生課	40,969,000	20,895,240	20,895,240	0	0	△ 20,073,760
学校教育課	501,205,375	125,459,679	125,459,679	0	0	△ 375,745,696
特別支援教育課	71,654,000	62,669,359	62,669,359	0	0	△ 8,984,641
人権教育課	72,619,000	366,731,035	79,290,392	319,920	287,120,723	6,671,392
体育健康安全課	250,506,000	98,746,763	98,746,763	0	0	△ 151,759,237
生涯学習課	3,566,401,000	3,553,714,329	3,553,714,329	0	0	△ 12,686,671
計	16,939,020,540	16,181,731,456	15,894,285,821	319,920	287,125,715	△ 1,044,734,719

## (2) 歳出決算額

(単位：円)

区 分	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	予 算 現 額 と 支 出 済 額 の 比 較
教 育 政 策 課	2,138,287,165	1,867,545,345	192,050,000	78,691,820	270,741,820
コンプライアンス推進室	996,000	875,685	0	120,315	120,315
施 設 整 備 課	4,454,920,840	2,730,229,177	1,326,183,000	398,508,663	1,724,691,663
教 育 創 生 課	71,322,000	61,510,114	1,980,000	7,831,886	9,811,886
教 職 員 課	59,889,956,000	59,397,739,029	0	492,216,971	492,216,971
福 利 厚 生 課	8,483,400,000	8,254,226,649	20,340,000	208,833,351	229,173,351
学 校 教 育 課	1,249,186,375	775,609,739	312,770,004	160,806,632	473,576,636
特 別 支 援 教 育 課	487,306,000	289,396,737	162,999,000	34,910,263	197,909,263
人 権 教 育 課	226,419,000	211,481,375	3,750,000	11,187,625	14,937,625
体 育 健 康 安 全 課	418,383,000	241,057,940	95,351,000	81,974,060	177,325,060
生 涯 学 習 課	1,976,722,000	1,941,457,648	0	35,264,352	35,264,352
計	79,396,898,380	75,771,129,438	2,115,423,004	1,510,345,938	3,625,768,942

## 2 特別会計決算額

## (1) 歳入決算額

(単位：円)

区 分	会 計 名	予算現額	調 定 額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	予 算 現 額 と 収 入 済 額 と の 比 較
生涯学習課	奨学金貸付金 特別会計	147,468,000	672,560,090	575,525,294	480,000	96,554,796	428,057,294
計		147,468,000	672,560,090	575,525,294	480,000	96,554,796	428,057,294

## (2) 歳出決算額

(単位：円)

区 分	会 計 名	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不 用 額	予 算 現 額 と 支 出 済 額 と の 比 較
施設整備課	県有林県行造林 事業特別会計	250,000	246,789	0	3,211	3,211
生涯学習課	奨学金貸付金 特別会計	147,468,000	145,227,061	0	2,240,939	2,240,939
計		147,718,000	145,473,850	0	2,244,150	2,244,150